

IFCファイル・ シート基準高さ 運用ガイド

【CADWe'll TfasIV編】



株式会社ダイテック

平成 25 年 11 月

<5 版>

はじめに

この度は、「CADWe'll TfasIV（以下「CADWe'll Tfas」）」をご採用いただき誠にありがとうございます。

本書「IFC ファイル・シート基準高さ運用ガイド【CADWe'll TfasIV編】」は、「CADWe'll Tfas」をお使いいただく方のために、より快適にお使いいただけるよう BIM（Building Information Modeling）に対応した運用方法について説明したものです。

本書に書かれている事項をご自分で操作しながら、「CADWe'll Tfas」の動作・結果・機能を確認していただき、「CADWe'll Tfas」を幅広くご活用ください。本書のご説明に合わせてサンプル図面もご用意しております。

設備設計・施工業務に最適な「CADWe'll Tfas」を、是非ご使用のパソコンの常用ソフトとして末永くご活用ください。

株式会社 ダイテック

- 「CADWe'll TfasIV」は株式会社ダイテックの商標であり、「CADWe'll TfasIV」にかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ダイテックに帰属します。
- Microsoft , Windows , Windows 8 , Windows 7 , Windows Vista , Windows XP , DirectX および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載されている全ての社名、製品名はそれぞれの会社の登録商標または商標です。
- 本文中に™、®、©は明記していません。
- 本書の記載内容は、予告なく変更することがあります。

CONTENTS

Chapter1 IFC ファイルを読み込む

1-1	IFC ファイル形式について	1-3
1-2	IFC ファイルを読み込む	1-3
1-2-1	IFC ファイルを読み込む	1-3
1-2-2	シート基準高さを確認する	1-7
1-2-3	図形情報を確認する	1-8
1-3	IFC インポートの設定について	1-9

Chapter2 シート基準高さの設定

2-1	シート基準高さによる BIM 対応	2-3
2-1-1	シート基準高さについて	2-3
2-2	シート基準高さを設定する	2-6
2-2-1	階フォルダを作成してシート基準高さを設定する	2-7
2-2-2	階を一括作成してシート基準高さを設定する	2-9
2-2-3	シート基準高さを変更する	2-11
2-2-4	各階に設備を追加する	2-13






Chapter3 断面および3D の表示

3-1	断面を表示する	3-3
3-1-1	階表示（階あり・階なし）について	3-3
3-1-2	断面図を表示する	3-4
3-2	3D 表示する	3-5
3-2-1	3D 表示する	3-5

Chapter4 設備IFC データの インポート・エクスポート

4-1	設備 IFC データについて	4-3
4-1-1	設備 IFC データのインポート	4-3
4-1-2	設備 IFC データのエクスポート	4-4

本文中のマークについて

マーク	意味	内容
	重要	各種機能の特長となる事項に記載しています。
	ポイント	ポイントとなる事項に記載しています。
	補足	補足事項に記載しています。
	参照	他の手順を参照する箇所に記載しています。
	ヒント	ヒントとなる事項に記載しています。

Chapter1

IFC ファイルを読み込む

1-1 IFC ファイル形式について

IFC (Industry Foundation Classes) は、IAI (International Alliance of Interoperability) が国際標準規格として定義した 3 次元の建物モデルのデータ形式です。

IFC ファイルは、建物を構成する属性データ(柱・壁・梁など)を保持したまま、さまざまなアプリケーションでデータを共有することができますので、互換性に大変優れています。

例えば、他 CAD で作成された IFC ファイル形式の建築図形データ(柱・壁・梁など)を Tfas で読込んだ場合、柱・壁・梁などは、基本図形に変換されることなく Tfas の建築部材(柱部材・壁部材・梁部材など)としてそのまま編集作業を行うことができますので、情報共有の利便性はもとより、生産性や品質面の向上も期待できます。

TfasⅢでは IFC のインポート機能をアドオンツールとして提供していましたが、TfasⅣからは IFC 機能を強化し、IFC の建築図形データのインポート機能に加え、設備図形データ※のインポート・エクスポート機能を標準搭載いたしました。(対応バージョンは「IFC2x Edition3 (IFC2x3)」)

※設備図形データのインポート、エクスポートについては、Chapter4 も併せてご覧ください。

1-2 IFC ファイルを読込む


Tfas では、IFC データを 1 フロアごとにシートに分けて図面を読込みます。

1-2-1 IFC ファイルを読込む

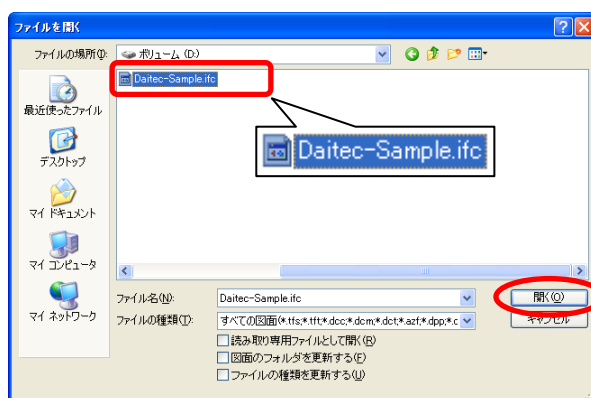
他 CAD で作成された IFC ファイルを Tfas で読込んでみましょう。

☆ここではサンプル図面「Daitec-Sample.ifc」を読込んでみます。

手順① ファイルを開く

1. ツールバーの  [開く] をクリックします。
2. [ファイルを開く] ダイアログが表示されます。

読込む IFC ファイルを選択して、<開く> ボタンをクリックします。



手順② 読み込みの設定を行う

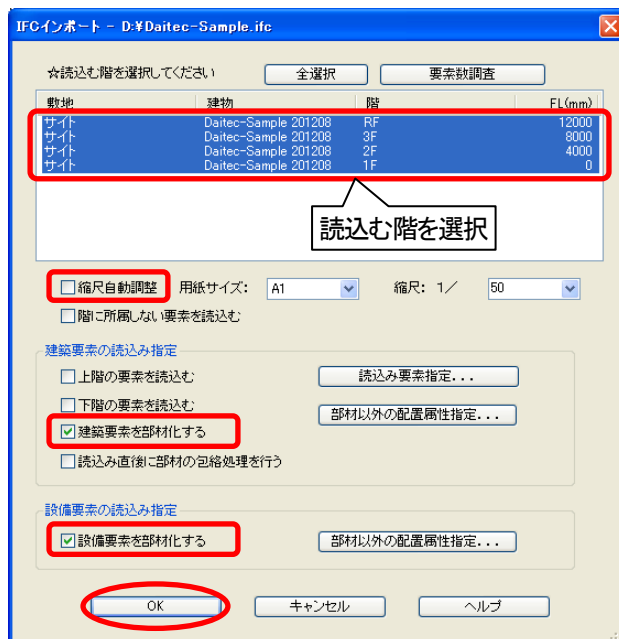
1. [IFC インポート]ダイアログが表示されます。

読み込む階を選択し、読み込み条件を指定して、〈OK〉ボタンをクリックします。

ここでは、下記のように設定します。

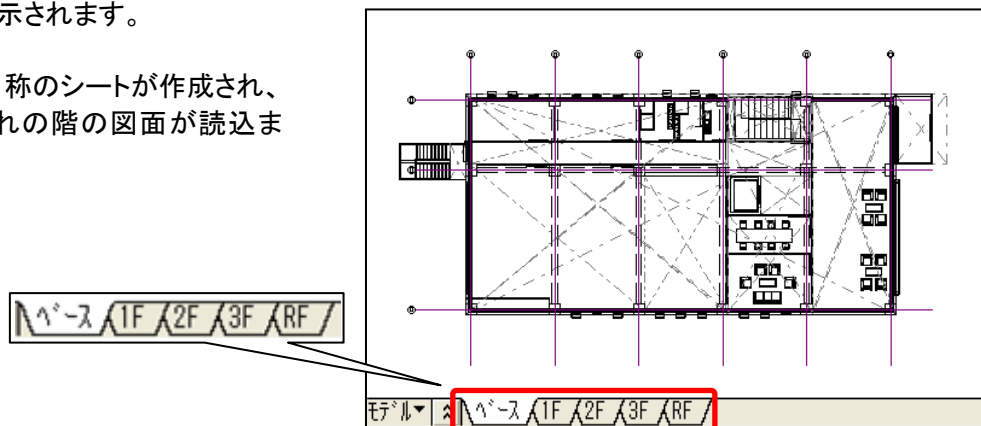
読み込む階 : 全ての階 (1F～RF) を選択
 [縮尺自動調整] : チェックボックスをオフ
 [建築要素を部材化する] : チェックボックスをオン
 [設備要素を部材化する] : チェックボックスをオン
 それ以外の項目 : チェックボックスを全てオフ

インポートの各項目の詳細については、
 「IFC インポートの設定について」(P.1-9)をご参照ください。



2. 読み込んだ図面が表示されます。

IFC の階名と同じ名称のシートが作成され、各シートにそれぞれの階の図面が読み込まれます。



読み込み後の Tfas 図面のシート構成

IFC ファイルの階名情報を元に Tfas のシートが作成されます。

(IFC インポート時に表示される建物情報)

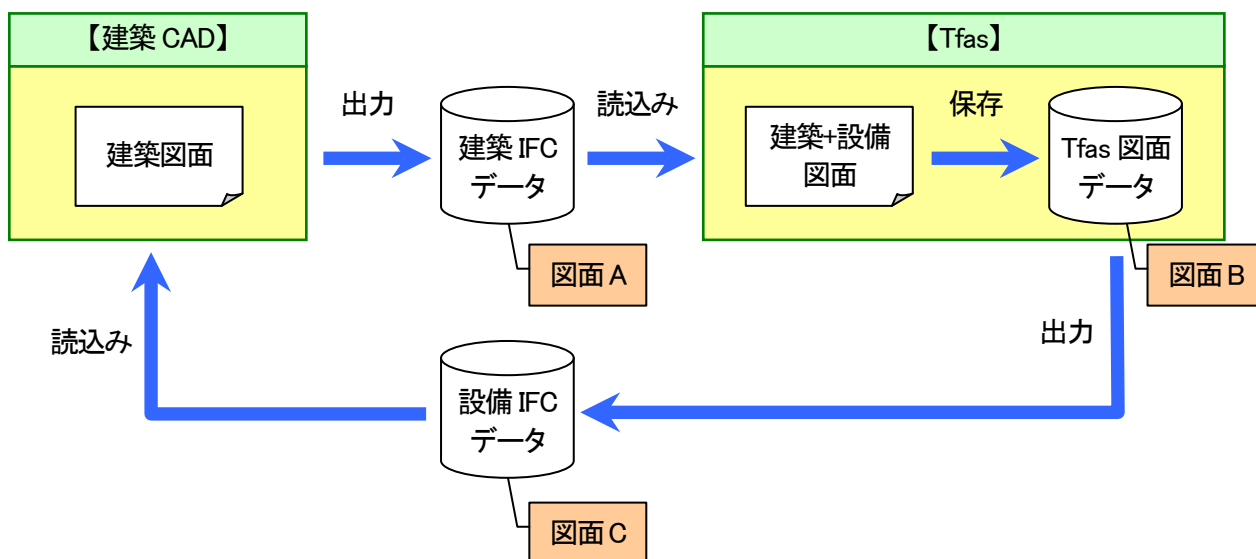
(Tfas のシート見出し)

敷地	建物	階	FL(mm)
サイト	Daitec-Sample 201208	RF	12000
サイト	Daitec-Sample 201208	3F	8000
サイト	Daitec-Sample 201208	2F	4000
サイト	Daitec-Sample 201208	1F	0

モデル ▾ 1F 2F 3F RF

建築 CAD との連携について

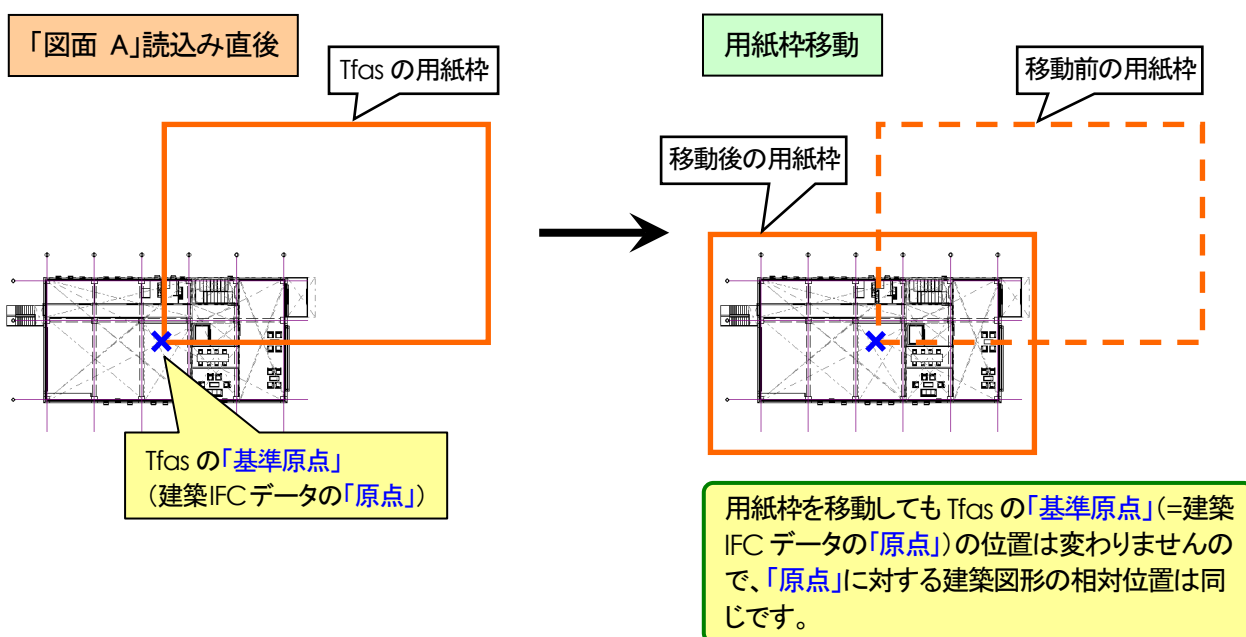
IFC を使用すると、下図のように建築 CAD と連携して図面データをやりとりすることができます。



【Tfas】で出力した設備 IFC データ(図面 C)を【建築 CAD】で読み込んだ場合に、建築図と設備図の位置関係がずれてしまうことがあります。この場合、下記の手順で運用後、IFC 出力してください。

推奨する運用例

[縮尺自動調整]項目をオフにして 図面 A を読み込んだ直後、建築図形が用紙枠よりはみ出している場合は、用紙枠を移動してください。



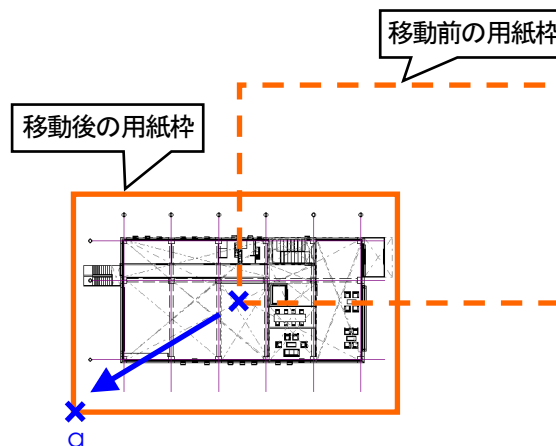
手順① 「図面 A」 (建築 IFC データ) を読み込み後、用紙枠を移動する

図面 A を読み込み後、用紙枠を移動します。

1. メニューバーの[設定]ー[用紙原点]をクリックします。
2. 用紙枠が仮表示されますので、マウスカーソルを移動して図形が納まる位置を確認し、移動先の位置 a をクリックします。

✓ 移動基準は、<Shift>+<左クリック>で用紙枠の「左下」または「中央」に切り替えることができます。

★用紙枠が移動しました。



用紙枠の原点(「用紙原点」)は、常に用紙枠の左下です。
用紙枠移動後、a が新しい「用紙原点」になりました。

1-2-2 シート基準高さを確認する

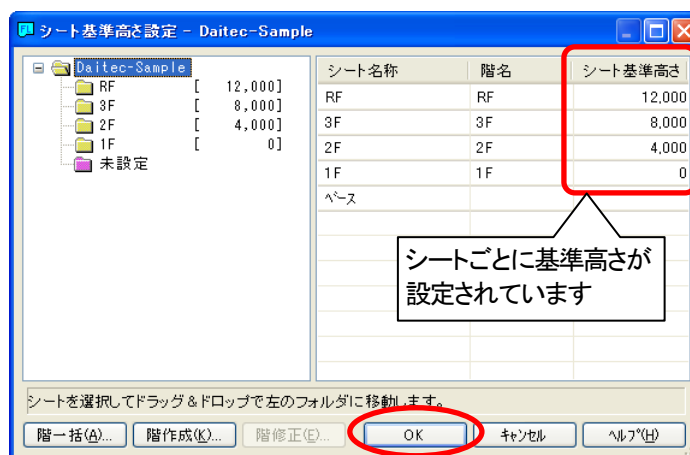
IFC ファイルを読み込むと、IFC の高さ情報をもとに Tfas のシート基準高さ※が自動的に設定されます。ここでは、読み込み後の図面のシート基準高さの設定情報を確認してみましょう。

※シート基準高さ機能の詳細については Chapter2 を参照してください。

手順① 高さ情報を確認する

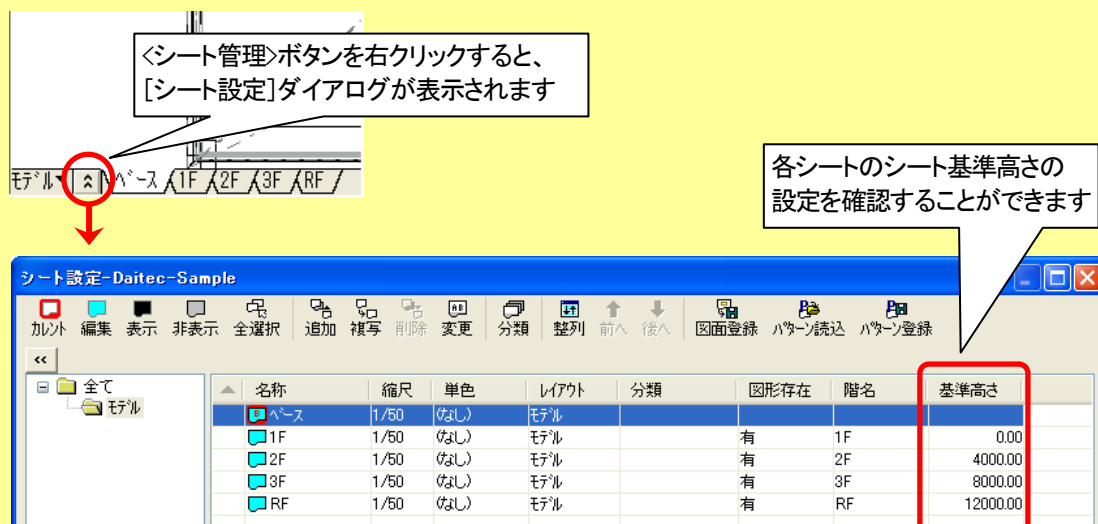
1. メニューバーの[設定]－[シート機能]－[シート基準高さ]をクリックします。
2. [シート基準高さ設定]ダイアログが表示されます。

シートごとに基準高さが設定されていますので、高さを確認し、<OK>ボタンをクリックします。



シート設定ダイアログでシート基準高さを確認する


シート基準高さの設定状態は、[シート設定]ダイアログでも確認することができます。(設定変更は不可)



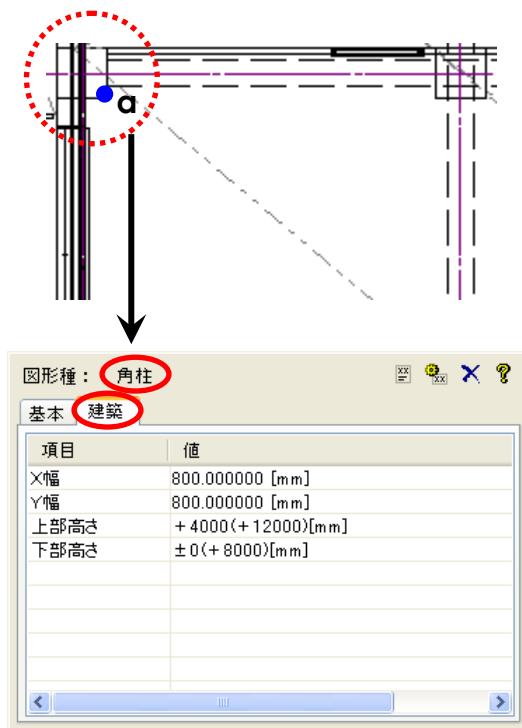
1-2-3 図形情報を確認する

読込んだ図形の属性を確認してみましょう。

手順① 読み込み図形の属性を確認する

1. ツールバーの[図形情報]をクリックします。
2. 柱、壁、梁などの図形をクリックして図形の属性を確認します。

ここでは、柱 a をクリックして図形情報を表示します。
3. 柱の属性が建築部材の「角柱」になっていることが確認できます。



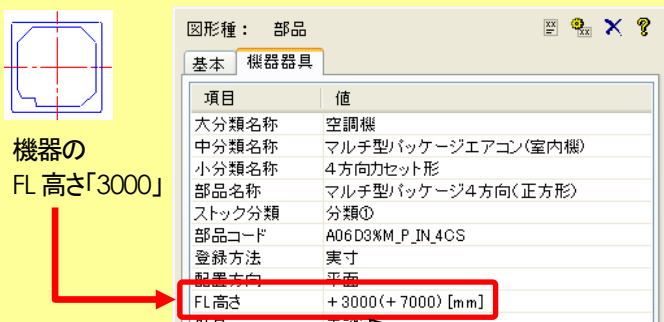
読み込みの設定時に「建築要素を部材化する」項目のチェックボックスをオンにしていた為、建築要素である柱が建築部材として読み込まれました。チェックボックスがオフの場合は、絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)として読み込まれます。図形情報では「グループ」と表示されます。

同様に、壁、梁などの図形属性も確認してみましょう。

シート基準高さが設定されている時の高さ情報の表示について

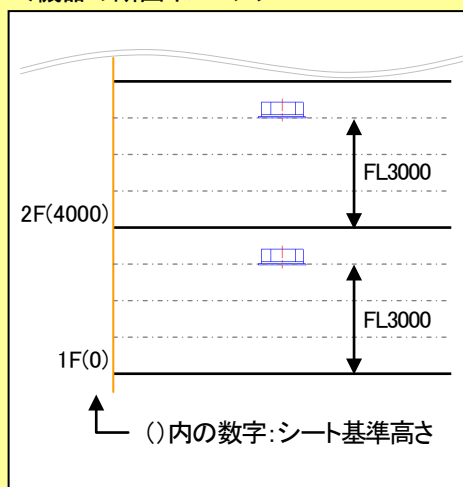
シート基準高さが設定されている場合、部品、部材等の図形情報を表示すると、FL 高さの後ろにシート基準高さを加味した FL 高さが()で表示されます。

【例】機器の図形情報を表示した場合



表示例は、[2F]シートの機器の図形情報を表示した場合です。「+3000」は機器の FL 高さ、(+7000)はシート基準高さ(4000)を加味した高さです。

<機器の断面イメージ>



1-3 IFC インポートの設定について

IFC 読み込み時に下記ダイアログが表示され、読み込み条件などを指定することができます。

■IFC インポートダイアログ

→ ①IFC の建物情報と読み込む階の選択 (P.1-9～)

→ ②縮尺・用紙サイズの設定 (P.1-10～)

→ ③建築要素の読み込み指定 (P.1-10～)

→ ④設備要素の読み込み指定 (P.1-13～)

①IFC の建物情報と読み込む階の選択

①- (1) 建物情報の選択

IFC の建物情報が階別に一覧表示されますので、読み込む階を選択します。
全ての階を読み込む場合は、〈全選択〉ボタンをクリックします。

☑ 選択した階に所属する要素が読み込まれます。

☑ 階の複数選択について

- ①個別選択 : 〈Ctrl〉+〈左クリック〉で選択したい階を1つずつ個別に選択します。
- ②範囲選択 : 左クリックで階を1つ選択してから、選択範囲の最終行の階を〈Shift〉+〈左クリック〉で選択します。
- ③対角選択 : 左クリックを押しながら選択範囲を対角指定して選択します。

①ー(2) 要素数調査

IFC ファイル内の図形要素数と展開時に生成される面の数を調査し、[IFC インポート]ダイアログの一覧に表示します。各要素種別ごと、階ごとの合計値を、AAA(BBB) の形式で表示します。

AAA：要素数

BBB：生成される面の概数を 100 単位で示す値(総数概算/100、小数点以下切り上げ)

【例】IFC の要素数調査を実行した場合

敷地	建物	階	FL(mm)	柱	壁	梁	スラブ	天井	傾斜路	設備要素	その他	合計
サイト	Daitec-Sample	201208 RF	12000	0(0)	10(1)	9(1)	7(1)	0(0)	0(0)	0(0)	6(50)	33(51)
サイト	Daitec-Sample	201208 3F	8000	18(2)	23(6)	9(1)	9(1)	7(1)	0(0)	0(0)	16(20)	116(34)
サイト	Daitec-Sample	201208 2F	4000	18(2)	23(6)	9(1)	9(1)	7(1)	0(0)	0(0)	15(19)	116(42)
サイト	Daitec-Sample	201208 1F	0	18(2)	28(7)	0(0)	5(1)	7(1)	0(0)	0(0)	25(251)	119(274)

IFC のデータ量が多い場合は、展開処理に大変時間がかかります。調査結果を参考にして、インポートする階や要素種別を限定することを推奨します。

②縮尺・用紙サイズの設定

☐ 縮尺自動調整 用紙サイズ: A1 縮尺: 1 / 50

☐ 階に所属しない要素を読み込む

②ー(1) 縮尺・用紙サイズの設定

[縮尺自動調整]項目のチェックボックスをオフに設定した場合は、用紙サイズと縮尺を任意に設定できます。オンに設定した場合は、用紙サイズは環境設定コマンドの用紙サイズの設定※に従い、縮尺が自動的に設定されます。また、用紙枠も自動的に位置が調整されます。

※メニューバーの[設定]－[環境設定]の[環境設定]ダイアログ([図面]タブ)にて設定。

②ー(2) 階に所属しない要素を読み込む

敷地または建物などに直接所属し、階に所属していない要素を読み込む場合に、チェックボックスをオンにします。

③建築要素の読み込み指定

☐ 上階の要素を読み込む } (1) 読み込み要素指定... (2)

☐ 下階の要素を読み込む } (1) 部材以外の配置属性指定... (5)

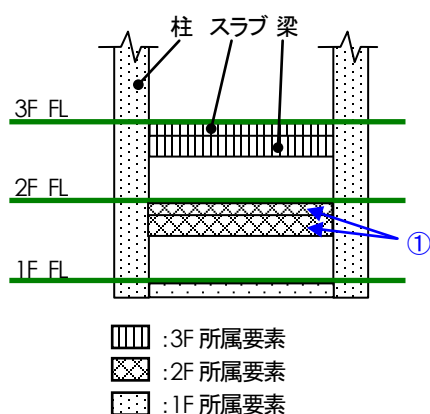
☒ 建築要素を部材化する (3)

☐ 読み込み直後に部材の包絡処理を行う (4)

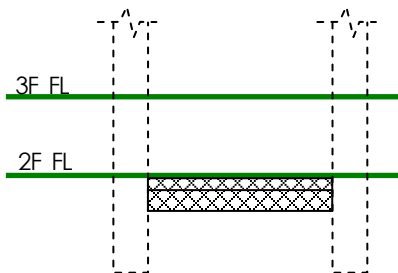
③ー(1) 上階／下階の要素を読み込む

チェックボックスをオンに設定した場合、読み込み指定した階の上階または下階に属する要素について、種別を指定して読み込むことができます。(種別の指定は③ー(2)を参照)

■上階／下階の要素を読み込む:オフの場合

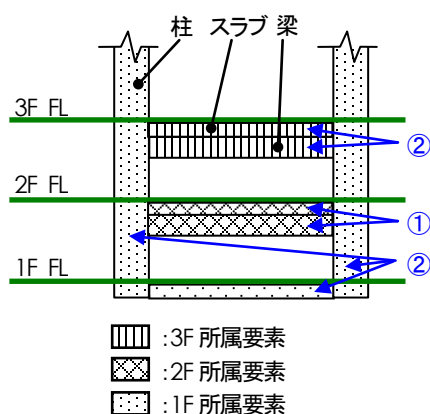


例) 左図で「2F」を選択した場合に読み込まれる要素

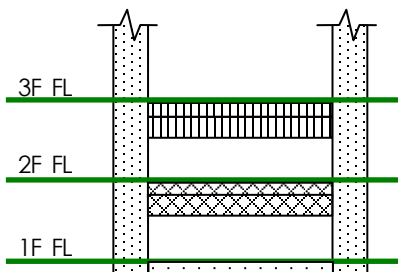


- ①2F に所属する要素
・2F 所属のスラブ、梁

■上階／下階の要素を読み込む:オンの場合



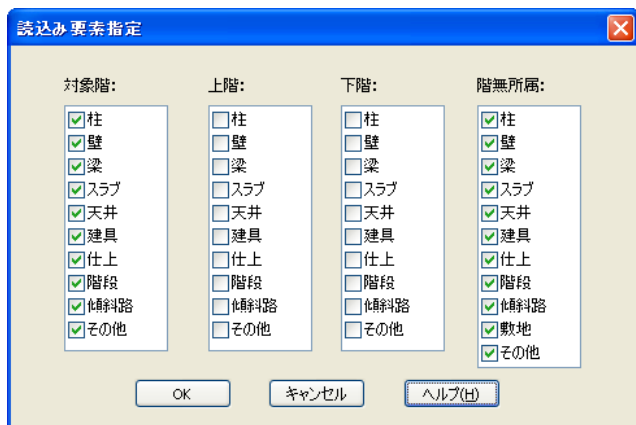
例) 左図で「2F」を選択した場合に読み込まれる要素



- ①2F に所属する要素
・2F 所属のスラブ、梁
- ②指定した 2F の上階、下階に所属する要素
・3F 所属のスラブ、梁
・1F 所属の柱、床スラブ

③-(2) 読み込み要素指定

〈読み込み要素指定〉ボタンをクリックすると、[読み込み要素指定]ダイアログが表示されますので、[対象階] (読み込み指定した階)、[上階]、[下階]、[階無所属]項目ごとに読み込む種別のチェックボックスをオンに設定します。



③- (3) 建築要素を部材化する

IFC 建築データを建築部材として読込む場合はチェックボックスをオン、絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)に変換して読込む場合はチェックボックスをオフにします。

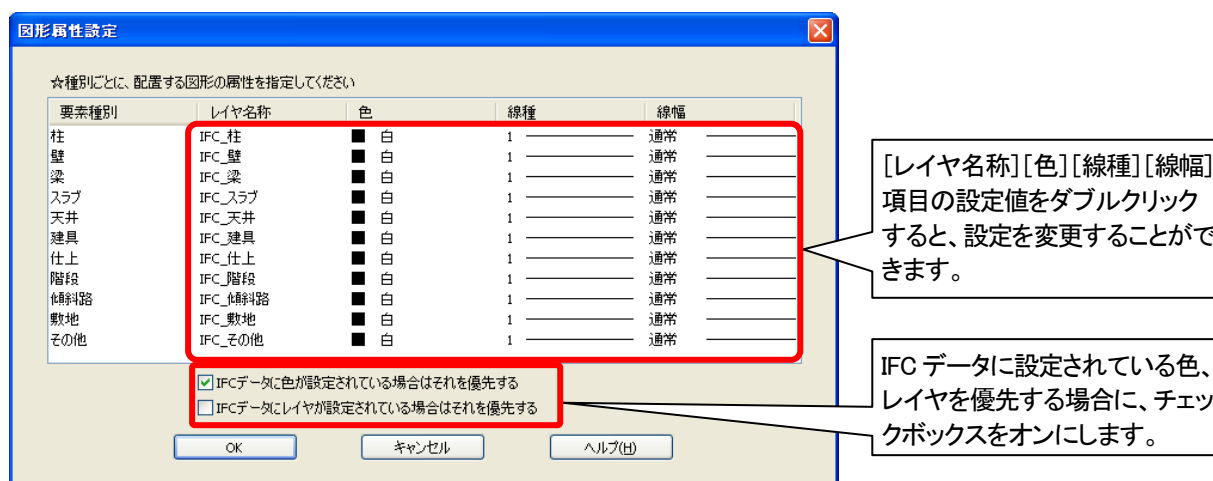
絵柄形式データとして読込まれた図形は、建築部材として編集することはできませんのでご注意ください。

③- (4) 読み直後に部材の包絡処理を行う

読み直後に部材の包絡処理を行う場合に、チェックボックスをオンにします。

③- (5) 部材以外の配置属性指定

＜部材以外の配置属性指定＞ボタンをクリックすると、[図形属性設定]ダイアログが表示されますので、建築部材を絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)に変換して読込む場合の図形属性(レイヤ名称・色・線種・線幅)を指定します。



「建築要素を部材化する」項目(③-(3))のチェックボックスをオンにしても建築部材として変換できなかった図形は、ここで設定した属性に従って絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)として読込まれます。

④設備要素の読み込み指定

設備要素の読み込み指定

☒ 設備要素を部材化する (1)

部材以外の配置属性指定... (2)

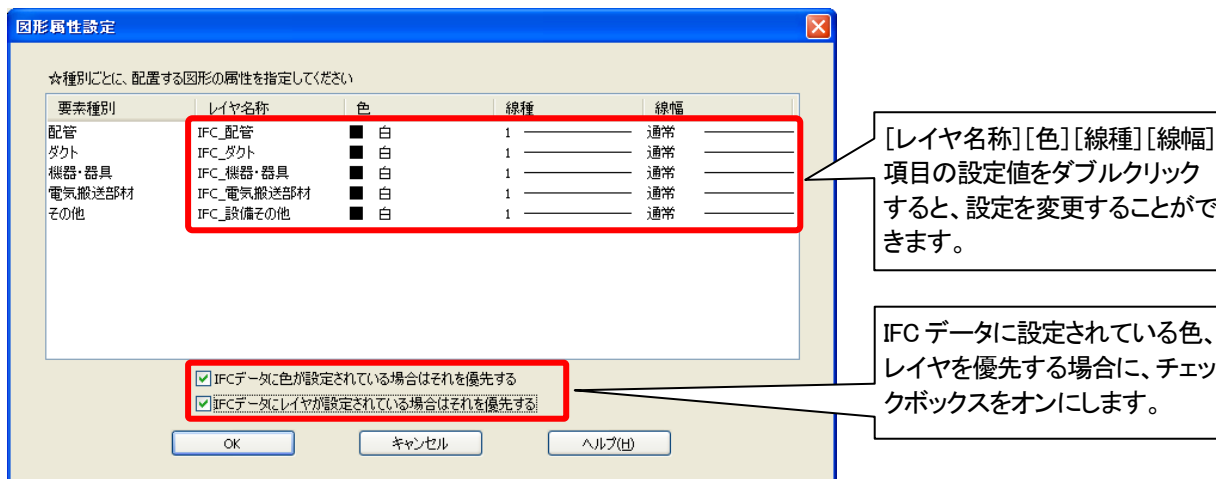
④- (1) 設備要素を部材化する

例えば配管やダクトなどの設備要素図形を設備部材として読み込む場合はチェックボックスをオン、絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)に変換して読み込む場合はチェックボックスをオフにします。

絵柄形式データとして読み込まれた図形は、設備部材として編集することはできませんのでご注意ください。

④- (2) 部材以外の配置属性指定

〈部材以外の配置属性指定〉ボタンをクリックすると、[図形属性設定]ダイアログが表示されますので、設備部材を絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)に変換して読み込む場合の図形属性(レイヤ名称・色・線種・線幅)を指定します。



絵柄形式データとして読み込まれた図形は、ここで設定した属性に従って絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)として読み込まれます。

Chapter2

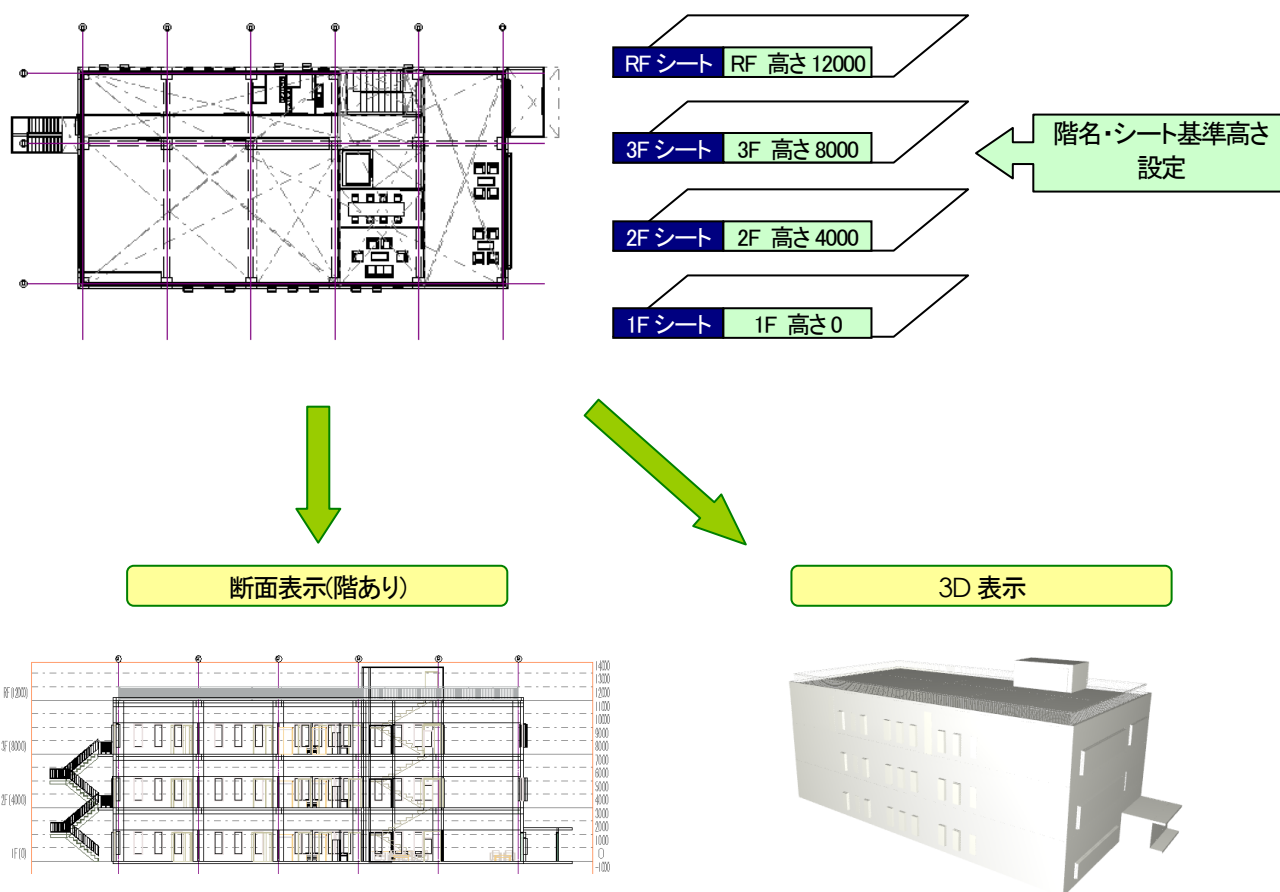
シート基準高さの設定

2-1 シート基準高さによる BIM 対応

2-1-1 シート基準高さについて

シート基準高さとは、Tfas 図面の各シートを 1フロアの図面として位置づけ、それぞれの平面図のシートごとに高さを設定することができるようにしたものです。これにより、シート高さを反映して、Tfas の断面表示機能や 3D キットにて、BIM (Building Information Modeling) 的な表現や見上げ見下げの取り合いが実現できるようになりました。(下図参照)

Chapter1 でご紹介した IFC ファイルは、このシート基準高さに相当する階情報を持っていますので、Tfas で IFC ファイルを読み込むと、シート基準高さが自動的に設定された状態となります。



※断面表示および 3D 表示の方法については Chapter3 を参照してください。

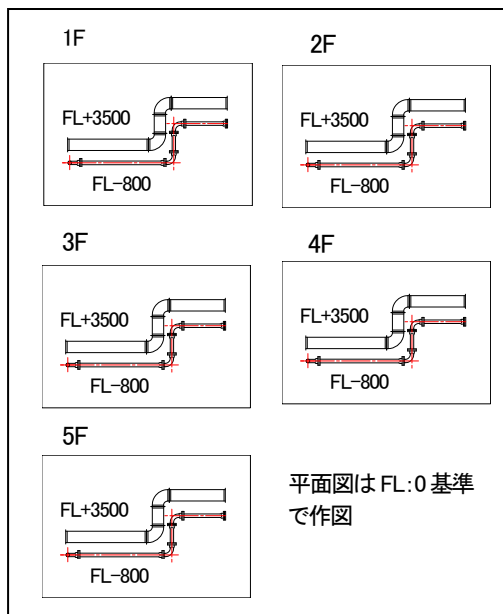
図面にシート基準高さが設定されていない場合でも、これまで通り FL 高さを基準として断面表示・3D 表示することができますので、操作性を損なうことなくご使用いただけます。



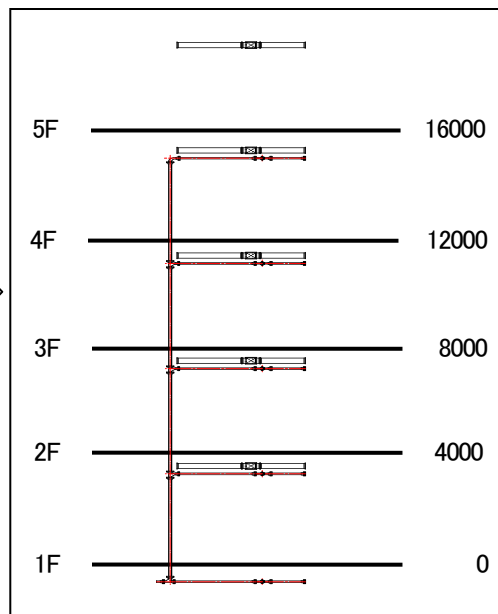
シート基準高さ機能の特長とメリット

①シート基準高さを反映した断面表示(階あり)が可能

＜平面図＞



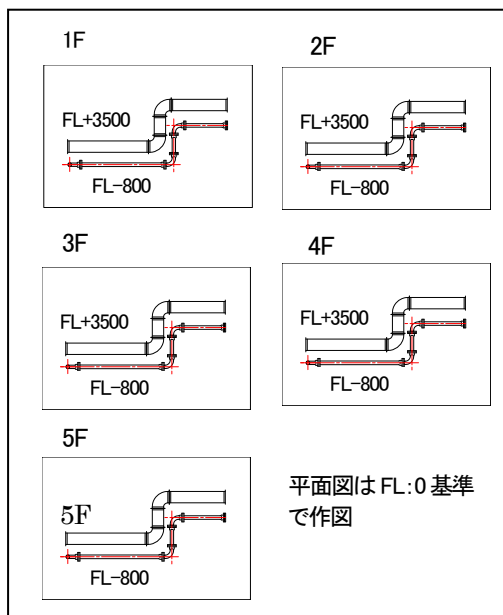
＜断面図(階あり)＞



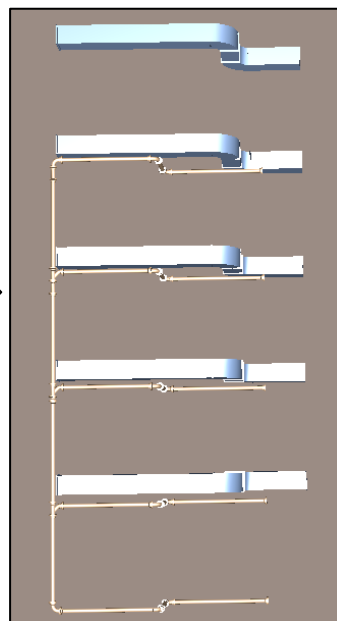
- 空調見上げ・衛生見下げを共有して配管やダクトの干渉チェックが行えます。
- シャフト部の図面が容易に作成できます。
- 干渉した箇所の作図・修正が容易に行えます。

②シート基準高さを反映した 3D 表示が可能

＜平面図＞



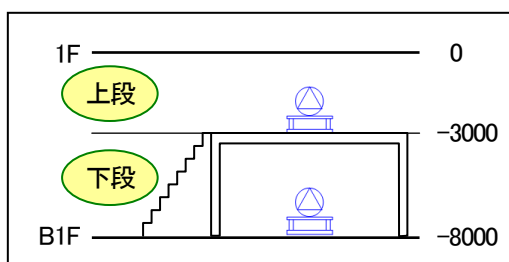
＜3D 表示＞



- 空調見上げ・衛生見下げを共有して配管やダクトの干渉チェックが行えます。
- 階を積み上げた 3D で編集をした場合でも 2D 図面と連動できます。

③同一フロア内でシート基準高さを複数設定することが可能

- 機械室で上段、下段の基準を設ける場合などにご使用いただけます。



上段、下段でシートを分けることで、それぞれのシートに基準高さを設定することができます。

④下位バージョンとの互換性のよさ

- シート基準高さの設定情報(階名、シート基準高さ)は、シートごとの属性として図面に保存されます。この図面を TfasIV より前のバージョンで開いて保存しても、再度 TfasIV で開くと、シート基準高さの設定情報は保持された状態でご使用いただけます。

⑤IFC の階情報に対応

- IFC ファイル読み込み時に、IFC の階情報をシート基準高さとして自動的に設定することができます。



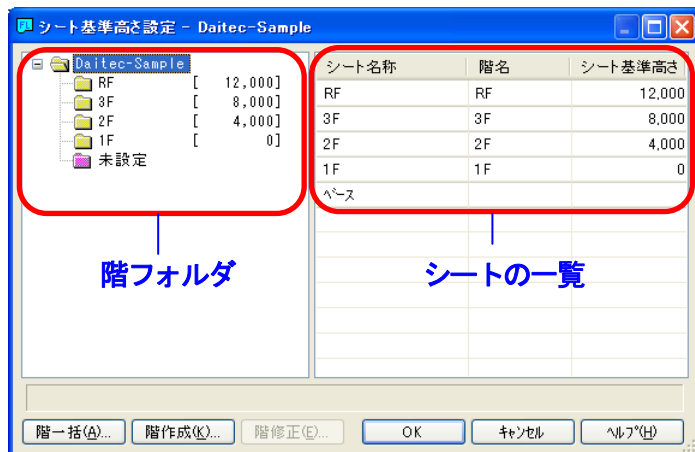
注意

- 1つのシートで複数階(2F～5F など)を共用するような図面には対応していません。
- シート基準高さが設定された図面を CAPE 図面として保存した場合は、シート基準高さの設定情報は図面に保存されません。
- シート間接続されている 2 図形のシート基準高さを異なる高さに変更した場合、シート間接続は解除されます。
- 傍記の FL 表示については、シート基準高さは反映されません。
- 干渉チェック機能は断面図で使用してください。平面図側では複数階にわたる図面の干渉チェックは行えません。

2-2 シート基準高さを設定する

Chapter1 では、IFC ファイルを読み込むとシート基準高さが自動で設定されることを確認しました。ここでは、Tfas で作成した平面図の各シートにシート基準高さを新たに設定する方法を説明します。

■シート基準高さの設定画面



シートの一覧

選択した階フォルダ内のシートを一覧表示し、シート基準高さが設定されているシートには、階名とシート基準高さが表示されます。

ルート(最上層)の階フォルダを選択した場合は、全シートを一覧表示します。

階フォルダ

初期状態では、展開中の Tfas の図面名(図面名が設定されていない場合は図面ファイル名)と同じ名称の階フォルダの中に「未設定」フォルダが1つ作成されています。シート基準高さを設定していない状態のシートは、全てこの「未設定」フォルダに格納されています。

シート基準高さを設定するには、まず、各階分の階フォルダを、〈階一括〉ボタンや〈階作成〉ボタンを使用して作成します。

＜例＞階フォルダの作成例

RF	[12,000]
3F	[8,000]
2F	[4,000]
1F	[0]

↑
設定した階名

↑
設定したシート基準高さ

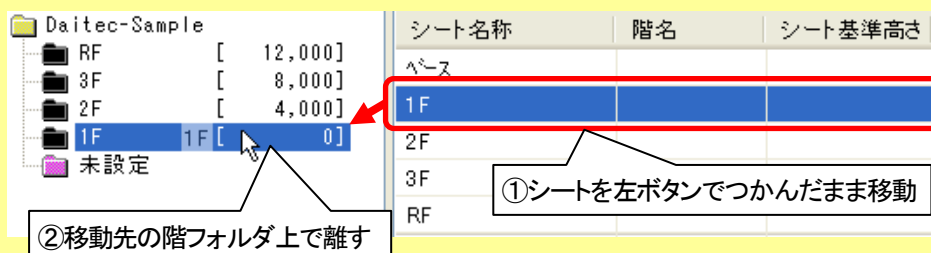
※階フォルダの名称は、階名+[シート基準高さ]で構成されます。

※階フォルダ内にシートが1つも設定されていない場合、階フォルダの色は黒色(■)で表示されます。

階フォルダを作成後、「未設定」フォルダ内のシートを該当する階フォルダ内にドラッグ & ドロップで移動させることで、各シートのシート基準高さが設定できます。

ドラッグ & ドロップによるシート移動

シート上でマウスの左ボタンを押したまま移動し、移動先の階フォルダ上でマウスの左ボタンを離すことで移動させる方法です。



2-2-1 階フォルダを作成してシート基準高さを設定する

階フォルダを個別に作成し、シート基準高さを設定する方法を説明します。

☆階ごとにシートを作成し、それぞれのシートに平面図を作図したものをご用意ください。

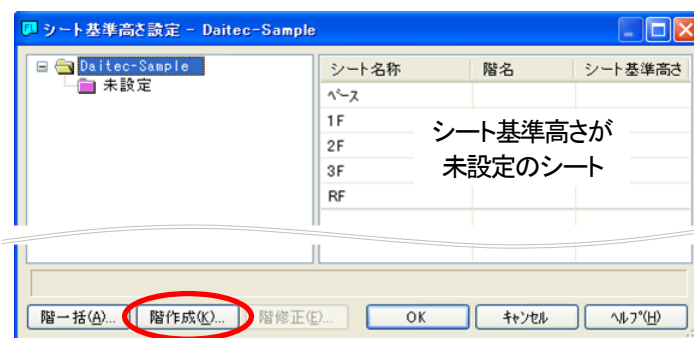
例として、シート[1F][2F][3F][RF]に建築図を作成した時のシート基準高さの設定方法を説明します。

手順① 階フォルダを作成する

1. メニューバーの[設定]－[シート機能]－[シート基準高さ]をクリックします。

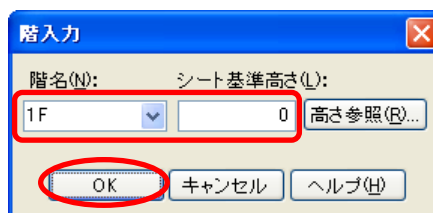
2. [シート基準高さ設定]ダイアログが表示されますので、<階作成>ボタンをクリックします。

シート基準高さが何も設定されていない場合、「未設定」フォルダの中にシートが格納されています。



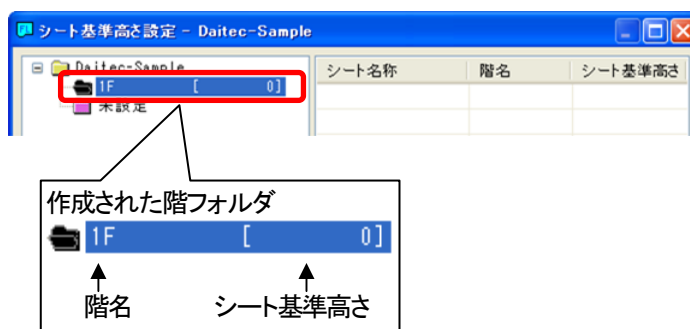
3. [階入力]ダイアログが表示されますので、階名とシート基準高さを設定し、<OK>ボタンをクリックします。

ここでは、階名を「1F」、シート基準高さを「0」と入力します。



4. [シート基準高さ設定]ダイアログが再表示され、指定した階名で階フォルダが作成されます。

階フォルダ内にシートが存在しない状態で[シート基準高さ設定]ダイアログの<OK>ボタンをクリックすると、次回このダイアログを表示した時に、作成した階フォルダがなくなってしまうのでご注意ください。



※ (黒色の階フォルダ) は、階フォルダ内にシート基準高さを設定したシートが存在しないことを表します。

他のシート(2F～RF)についても、同様の方法で階名とシート基準高さ(下記参照)を設定してみましょう。

(階名) (シート基準高さ)

- [2F]シート : 2F 4000
- [3F]シート : 3F 8000
- [RF]シート : RF 12000

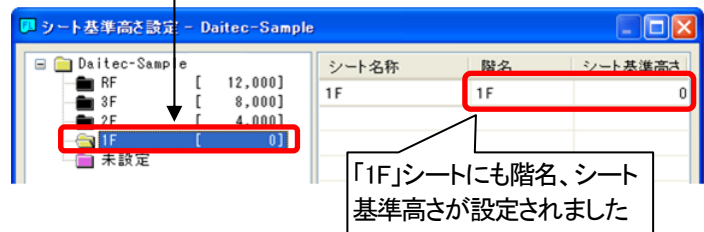
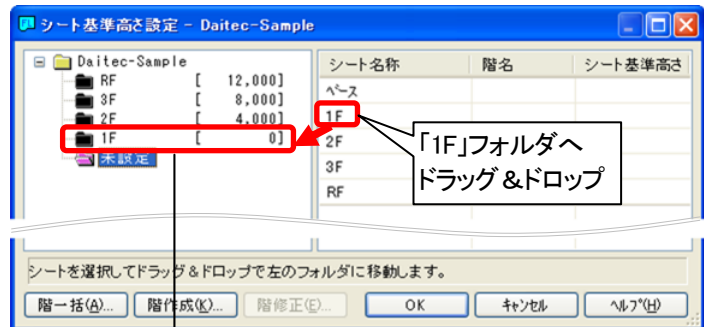


手順② 階フォルダへシートを移動する

- 次に、「未設定」フォルダ内のシートを所定の階フォルダ内にドラッグ & ドロップで移動します。

階フォルダにシートを移動することで、階フォルダと同じ階名、シート基準高さがシートに設定されます。

ここでは、「1F」シートを「1F」フォルダへ移動します。



※ (黄色の階フォルダ) は、階フォルダ内にシート基準高さが設定されたシートが存在していることを表します。

他のシート(2F~RF)についても、同様の方法でシートを移動してみましょう。

- [2F]シート ⇒「2F」フォルダへ移動
- [3F]シート ⇒「3F」フォルダへ移動
- [RF]シート ⇒「RF」フォルダへ移動



- 全てのシートを階フォルダに移動したら、<OK>ボタンをクリックします。

★各シートにシート基準高さが設定されました。

2-2-2 階を一括作成してシート基準高さを設定する

階フォルダを一括で作成し、シート基準高さを設定する方法を説明します。

手順① 階フォルダを一括で作成する

1. メニューバーの[設定]－[シート機能]－[シート基準高さ]をクリックします。
2. [シート基準高さ設定]ダイアログが表示されますので、<階一括>ボタンをクリックします。

シート基準高さが何も設定されていない場合、「未設定」フォルダの中にシートが格納されています。

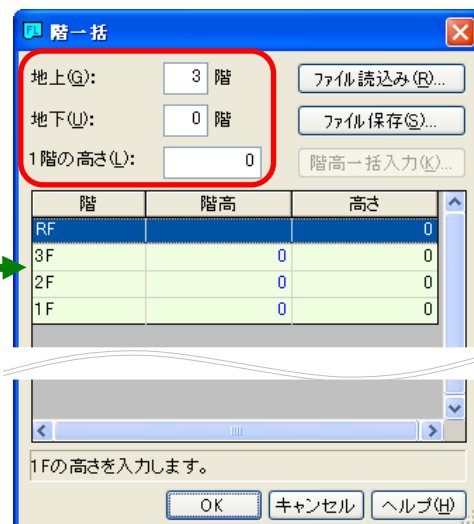


3. [階一括]ダイアログが表示されますので、作成する階数と1階の高さを設定します。

ここでは、下記のように設定します。

[地上] : 「3」階
[地下] : 「0」階
[1階の高さ] : 「0」

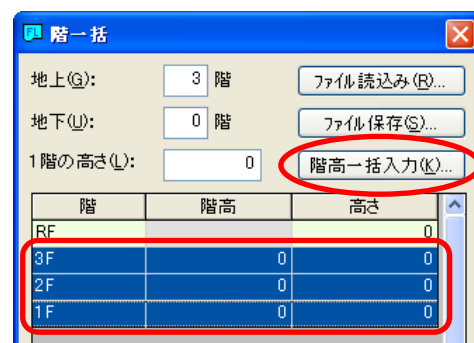
指定した階数がダイアログ下の一覧に表示されます。「RF」はデフォルトで設定されていますので、指定する必要はありません。



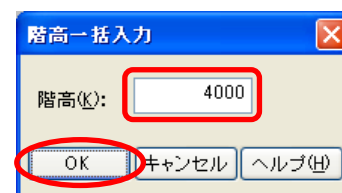
4. 一覧から階を選択し、<階高一括入力>ボタンをクリックします。

ここでは、1F～3Fを選択します。

<Ctrl>+<左クリック>で複数選択ができます。



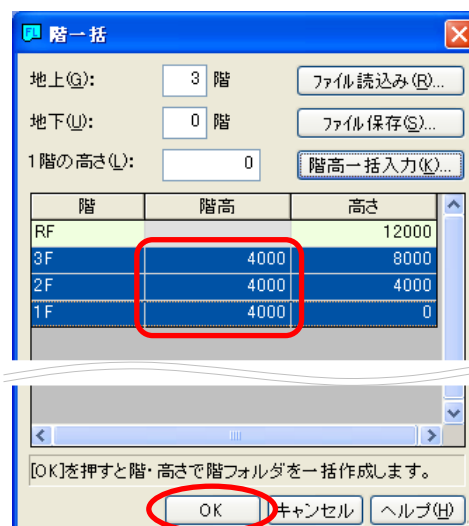
5. [階高一括入力]ダイアログが表示されますので、階高を「4000」と入力し、<OK>ボタンをクリックします。



6. [階一括]ダイアログの一覧(1F～3F)に、指定した階高が設定されます。

同時に、各階の[階高]と[1 階の高さ]を元に、[高さ]が自動計算表示されます。

7. 表示内容を確認し、<OK>ボタンをクリックします。



8. [シート基準高さ設定]ダイアログが表示されます。

指定した階数分の階フォルダが作成されていることを確認します。

階フォルダ内にシートが存在しない状態で<OK>ボタンをクリックすると、次回このダイアログを表示した時に、作成した階フォルダがなくなってしまうのでご注意ください。



※ (黒色の階フォルダ)は、階フォルダ内にシート基準高さを設定したシートが存在しないことを表します。

手順② 階フォルダへシートを移動する

「階フォルダを作成してシート基準高さを設定する」の手順②(P.2-8)と同様の方法で、シート基準高さが未設定のシートを各階フォルダへ移動します。



★各シートにシート基準高さが設定されました。

2-2-3 シート基準高さを変更する

シート基準高さは後から設定を変更することができます。

手順① シートを選択してシート基準高さを変更する

1. メニューバーの[設定]－[シート機能]－[シート基準高さ]をクリックします。

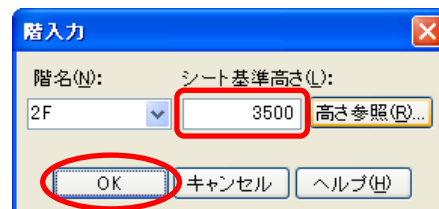
2. [シート基準高さ設定]ダイアログが表示されますので、変更する階のシートを選択します。

ここでは、「2F」フォルダ内の「2F」シートを選択して、<階修正>ボタンをクリックします。

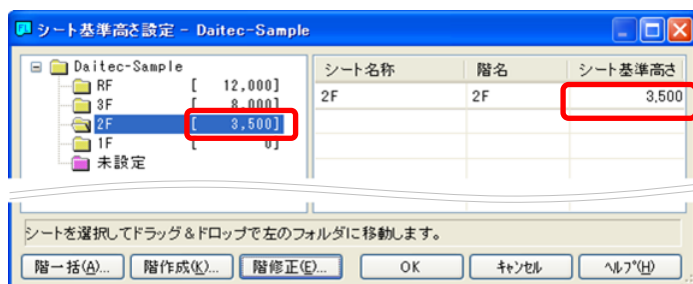


3. [階入力]ダイアログが表示されますので、階名、シート基準高さなどを変更し、<OK>ボタンをクリックします。

ここでは、シート基準高さを「4000」→「3500」に変更します。



4. [シート基準高さ設定]ダイアログが再表示され、シート基準高さが変更されました。



★「2F」シートのシート基準高さが変更されました。

他のシート(3F～RF)についても、同様の方法で手順②の画面のようにシート基準高さを変更してみましょう。

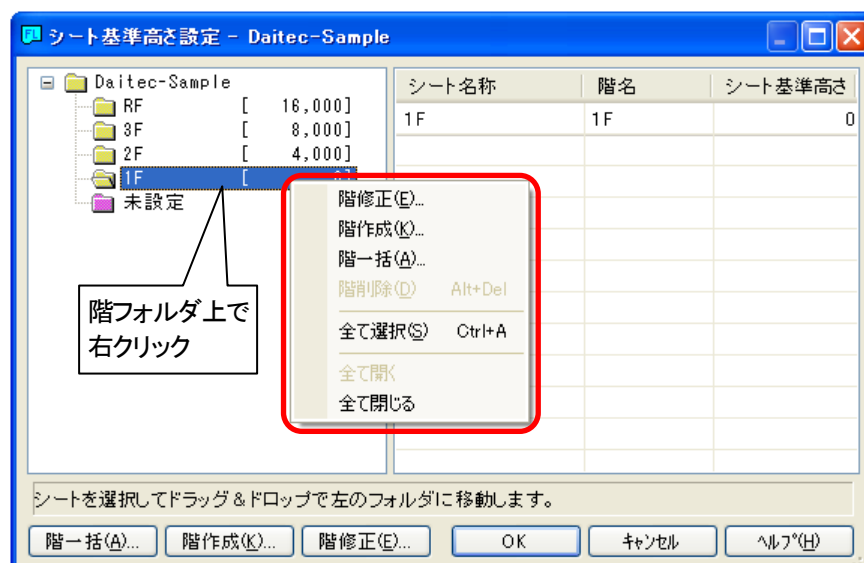
手順② 変更内容を確定する

1. 各階のシート基準高さを全て変更したら、<OK>ボタンをクリックして変更内容を確定します。



階フォルダの右クリックメニュー

階フォルダ上で右クリックすると、以下のメニューが表示され、階フォルダの編集を行うことができます。



右クリックメニュー	機能説明															
階修正	<p>[階入力]ダイアログにて、階名とシート基準高さを変更します。</p> 															
階作成	<p>[階入力]ダイアログにて、新しい階フォルダを作成します。(上画面参照)</p>															
階一括	<p>[階一括]ダイアログにて、階フォルダを一括作成します。</p>  <table><thead><tr><th>階</th><th>階高</th><th>高さ</th></tr></thead><tbody><tr><td>RF</td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>3F</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>2F</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>1F</td><td>0</td><td>0</td></tr></tbody></table> <p>1Fの高さを入力します。</p>	階	階高	高さ	RF		0	3F	0	0	2F	0	0	1F	0	0
階	階高	高さ														
RF		0														
3F	0	0														
2F	0	0														
1F	0	0														
階削除	<p>黒色の階フォルダ(シート基準高さが設定されていない階フォルダ)を削除します。</p> <p>※黄色の階フォルダ(シート基準高さが設定されている階フォルダ)は削除できません。</p>															
全て選択	<p>階フォルダ内のシートを全て選択します。</p>															
全て開く	<p>階フォルダを全て表示します。</p>															
全て閉じる	<p>ルート(最上層)の階フォルダのみを表示します。</p>															

Chapter3

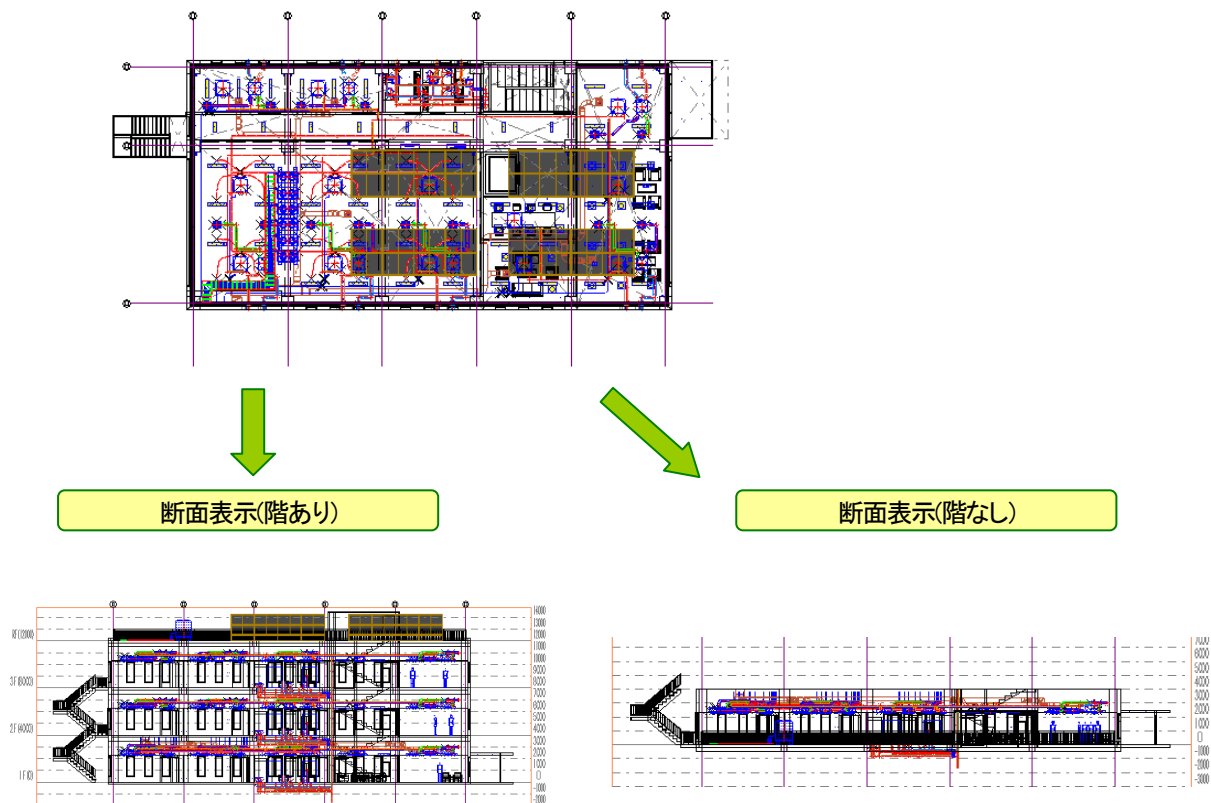
断面および 3Dの表示

3-1 断面を表示する

3-1-1 階表示(階あり・階なし)について

TfasIVからシート基準高さを反映した断面表示が可能になりました。

断面図の設定を「階あり」に設定した場合は、シート基準高さを反映して断面表示を行い、「階なし」に設定した場合は、シート基準高さは反映せず、従来通り各部材の FL 高さを基準に断面表示を行います。



3-1-2 断面図を表示する

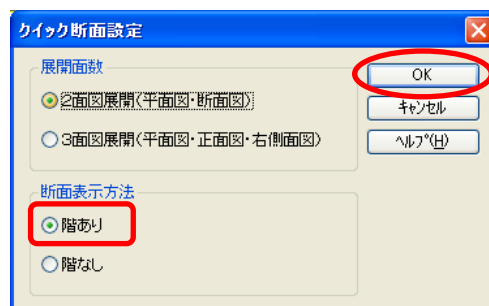
断面図の表示方法を「階あり」に設定し、シート基準高さを反映した断面図を表示してみましょう。

☆シート基準高さが設定されている図面をご用意ください。

ここでは、例としてサンプル図面「Daitec-Sample 設備図-T4.tfs」を断面表示してみます。

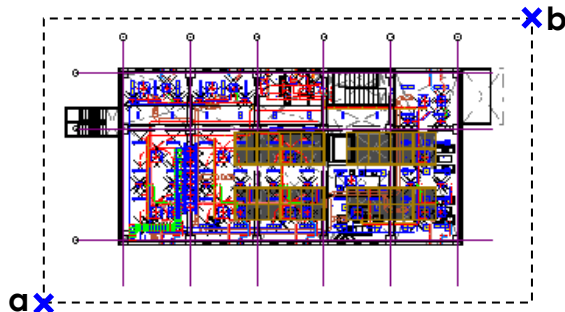
手順① 断面図の表示方法を設定する

1. メニューバーの[各設備]－[断面]－[クイック断面設定]をクリックします。
2. [クイック断面設定]ダイアログが表示されますので、[展開面数]項目で展開面数を指定し、[断面表示方法]項目の「階あり」をオンに設定して、<OK>ボタンをクリックします。

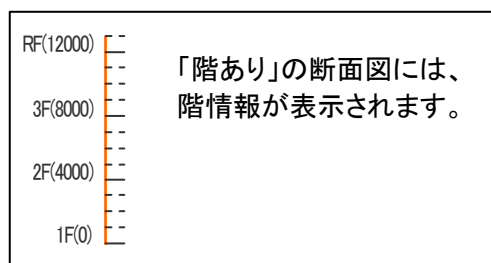


手順② 断面図を表示する

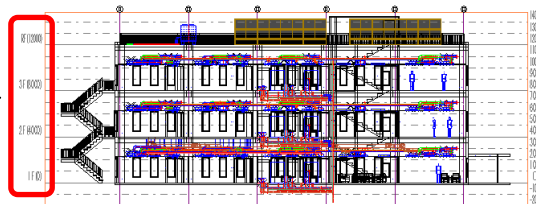
1. メニューバーの[各設備]－[断面]－[クイック断面]をクリックします。
2. 断面表示する図形を対角(a-b)で選択し、<Enter>を入力して選択を確定します。



★断面(階あり)が表示されました。



「階あり」の断面図には、階情報が表示されます。



階情報の表示は、用紙枠内に断面図が納まっているものしか表示しません。
全てのシート基準高さを表示したい場合は、断面図全体が用紙範囲内に納まるようにメニューバーの[ファイル]－[用紙サイズ・縮尺設定]にて用紙サイズを変更してください。

上記の[クイック断面設定]、[クイック断面]機能と同様、[断面図設定]、[断面表示]機能でも階の表示方法(階あり・階なし)を設定して断面図を表示することができます。

3-2 3D 表示する

3-2-1 3D 表示する

シート基準高さが設定されている図面を 3D 表示してみましょう。

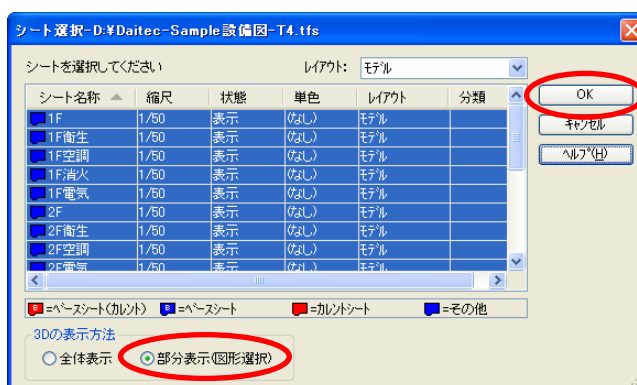
☆シート基準高さが設定されている図面をご用意ください。

ここでは、例としてサンプル図面「Daitec-Sample 設備図-T4.tfs」を 3D 表示してみます。

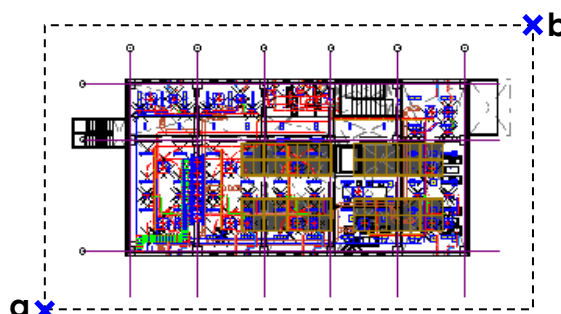
手順① 3D 表示機能を実行する

1. ツールバーの **3D** [3D 表示] をクリックします。
2. [シート選択] ダイアログが表示されますので、3D 表示するシートを選択し、[3D の表示方法] 項目の「部分表示 (図形選択)」をオンに設定して、<OK> ボタンをクリックします。

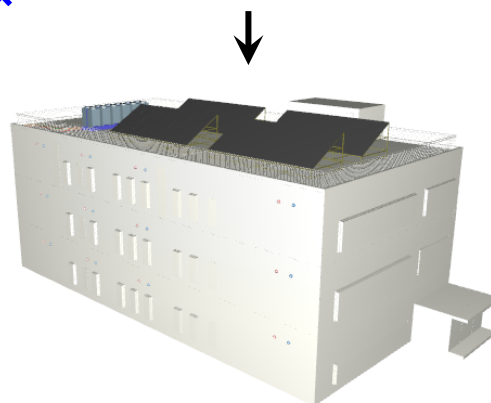
ここでは、[図面枠] シート以外のシートを全て選択します。



3. 3D 表示する図形を対角(a-b)で選択し、<Enter>を入力して選択を確定します。



★3D キット画面に 3D 図形が表示されました。



Chapter4

設備IFCデータの インポート・エクスポート

4-1 設備 IFC データについて

Tfas では、他 CAD で出力された IFC の設備図形データをインポートしたり、Tfas の設備図形を IFC の設備図形データとしてエクスポートすることができます。

4-1-1 設備 IFC データのインポート

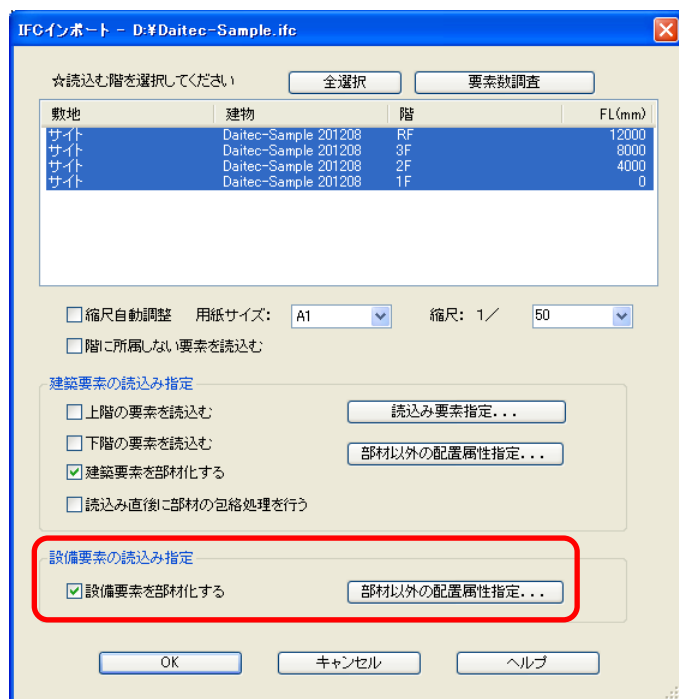
TfasIVでは、建築要素図形だけでなく、設備要素を持つ IFC データのインポートが可能になりました。設備 IFC データは、BE-Bridge5.0 に準拠した形式で読み込まれます。ただし、部材として展開できない図形については、3D 絵柄形式データ(3次元折線のグループ図形)として読み込まれます。



BE-Bridge5.0 の読み込みに関する仕様については、ヘルプをご参照ください。

インポート方法は、[開く]機能で IFC ファイルを指定して読み込みます。

[IFC インポート]ダイアログに[設備要素の読み込み指定]項目がありますので、データを部材化するかどうかが指定することもできます。



※IFC ファイルのインポート方法については、Chapter1 を参照してください。

4-1-2 設備 IFC データのエクスポート

Tfas では、[名前を付けて保存]機能にて設備図形を IFC データとしてエクスポートすることができます。

■出力対象図形

図形	出力対象図形
電気図形	ダクト、ケーブルラック、レースウェイ、バスダクト、スリーブ
	電気パイプ
	3D キットで立体表示可能な部品
空調・衛生図形	3D キットで立体表示可能なダクト・配管・中間器具(ダンパ・弁類等)・スリーブ
	3D キットで立体表示可能な機器器具(直方体表示含む)
建築図形	通り芯
基本図形	3次元折線(折線の頂点全てで1平面を構成できるもの)
	3次元折線を要素に持つ集合図形
	上記出力対象図形を要素に持つグループ図形(※1)

(※1)出力される図形は、要素単位に分解されます。

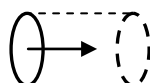
■出力図形の形状(IFC3D 形状)・色・レイヤ

形状	SweptSolid または SurfaceModel(※2) ※出力対象図形は、SweptSolid で出力されます。ただし、SweptSolid にできない形状の場合、SurfaceModel で出力されます。
色	3次元折線 : 3次元折線の色
	その他の図形 : [3D]-[表示色設定]で設定した色
レイヤ	通り芯図形 : レイヤ名「通り芯」
	その他の図形 : 図形の属しているレイヤ名(※3)

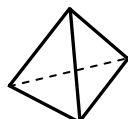
(※2)出力図形の形状について

SweptSolid、SurfaceModel とは、IFC で決められた図形の定義です。

- SweptSolid
面を軸に沿って押し出した 3D 形状



- SurfaceModel
面を組み合わせで構成された 3D 形状



(※3)複数のレイヤに配置された 3次元折線を要素に持つ集合図形は、最初に作図された 3次元折線のレイヤ名を出力します。

🔍 図面と異なる縮尺のシートは IFC 出力されません。

以下に、設備 IFC データのエクスポート方法について説明します。

手順① 名前を付けて保存する

1. メニューバーの[ファイル]－[名前を付けて保存]をクリックします。

2. [名前を付けて保存]ダイアログが表示されますので、[ファイルの種類]項目で「IFC ファイル (*.ifc)」を選択し、ファイル名を設定して<保存>ボタンをクリックします。

★設備図形が IFC データとしてエクスポートされました。

